

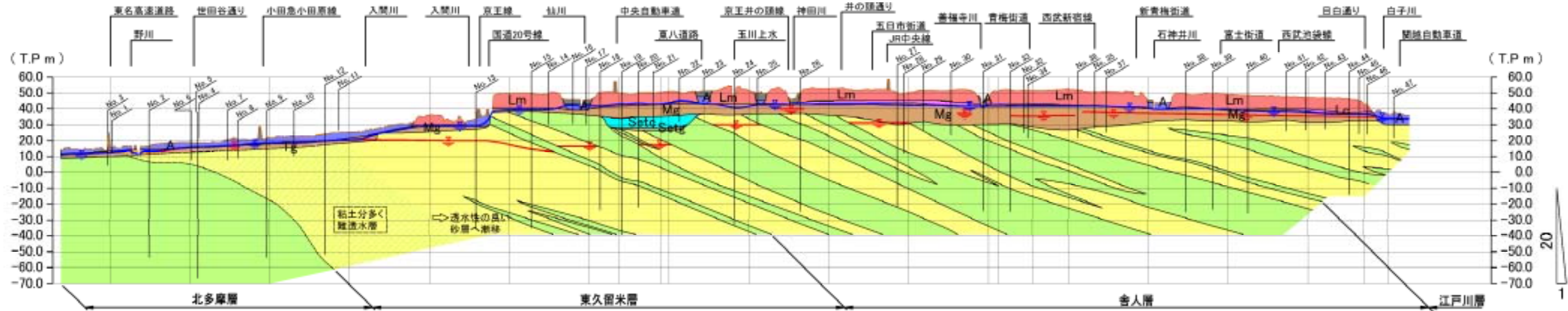
地下水調査

地下水の高さや移動の方向を把握するために、地中に地下水位観測パイプを立て込み、パイプに上がってくる水柱の高さを測定しています。浅層ボーリング地点では立川礫層や武蔵野礫層を対象に、深層ボーリング地点では上総層群の砂礫や砂層を対象に観測パイプを設置しています。立川礫層、武蔵野礫層中の地下水を浅層地下水、上総層群中の地下水を深層地下水と表現します。今回の地下水位の測定結果は、冬期の湧水期のデータであり、季節によって変動するものと考えられます。

| | | | |
|------|----------------------|------|--------------------------|
| 上総層群 | 北多摩層 | 砂、砂礫 | 深層地下水の帯水層 ^{注1)} |
| | 東久留米層 舎人層 江戸川層 | | 不透水層 |
| | | 粘性土 | |

上総層群のうち、透水性が高く深層地下水の帯水層^{注1)}である砂、砂礫層を「黄色」で、不透水層で帯水層でない粘性土層を「黄緑色」で区分しました。

注1) 帯水層：透水性の良い砂、砂礫層で地下水を貯えている地層。



地下水位縦断図

地下水位縦断図は、縦：横 = 20 : 1の割合で表現しています。標高は東京湾平均海面を基にした表示 (T.P.+m) を用いています。地下水位縦断図は、事業区域の中心に沿った断面を表現しています。

浅層地下水 : 立川礫層、武蔵野礫層の浅層地下水

東名道から京王線にかけての野川沿いの低地部には、地表から約3~5mの深さの立川礫層上部付近に存在しています。

京王線から関越道にかけての台地部には、地表から約7~12mの深さの武蔵野礫層上部付近に存在しています。

浅層地下水は、不圧地下水^{注2)}の状態になっています。

注2) 不圧地下水：
地表下浅い所にあり、自由に変化することのできる地下水面を持ち、圧力がかかっていない地下水のこと。
注3) 被圧地下水：
地下水の存在する地層の上部を不透水層で遮断され、圧力がかかった状態の地下水のこと。深い地層に存在し、移動の速さは極めて緩慢。

深層地下水 : 上総層群砂、砂礫層の深層地下水

- < 北多摩層 > 水を透さない粘性土層 (不透水層) で、帯水層ではありません。
- < 東久留米層 > 野川~入間川にかけては、粘性土分を多く含むため透水性が低く、地下水を貯めることが困難な地層です。入間川~京王線付近では、砂の粒径が粗く透水性が良好で、深層地下水の帯水層となっています。地下水の高さは、浅層地下水より約5~30m低い位置にあります。周辺で水源用深井戸による揚水が行われている影響と考えられます。この揚水の影響を受けて、南東 北西の方向に、1日に約1cm以下とゆっくりと移動しています。
- < 舎人層 > 透水性の高い砂礫層に深層地下水が存在しています。不透水である粘性土層を挟んでいますので、武蔵野礫層と接している部分以外は被圧地下水^{注3)}となっています。この揚水の影響を受けて、南東 北西の方向に、1日に約2cm以下とゆっくりと移動しています。地下水の高さは、浅層地下水に比べ、約5~30m低い位置にあります。水源用深井戸の揚水の影響と考えられます。この影響は中央道付近で大きく、青梅街道付近では小さくなります。
- < 江戸川層 > 透水性の高い砂礫層が主体で、その中に深層地下水が存在します。江戸川層は地層全体が、透水性の高い武蔵野礫層と接しており、ほとんどが不圧地下水の状態にあります。地下水の高さは、浅層地下水より若干 (約2~5m) 低い状態にあり、水源用深井戸の影響がわずかに出ているものと考えられます。地下水は南東 北西の方向に、1日に約2cm以下とゆっくりと移動しています。